

山岳ぐんま

群馬岳連救助訓練

太田山岳会 松嶋 一 幹

十一月二十八日から二十九日の二日間、裏妙義の麻芋の滝周辺で群馬岳連救助訓練を行いました。

私は登山の経験も浅く技術もまだまだですが、少しでも救助の手助けが出来ればと思い今年度から入隊させていただきました。五月に続き二度目の救助訓練に参加させていただきました。

今回の訓練内容は、一日目 レスキューの基礎技術の徹底的な訓練（現場への検索（登攀、ラッペル）引き上げ、降ろし、ブリッジ etc）。二日目 御岳方面での遭難者救助シミュレーションです。



ストレッチャーへの梱包

一日目は、鍵沢登山口（麻芋の滝入口）に集合。群馬岳連は途中参加も含め八名、長野労山からも二名の参加がありました。群馬岳連は、私も含め参加者の半数が今年度からの参加者です。

登山道の東屋付近から西側の斜面を登り、その先の急斜面で滑落した遭難者の検索・引き上げ訓練を行います。私は検索・救助役をさせていただきました。まずは検索下降です。救助はスピードが大切と言うことで、下降支点はスリング等を使わず下降ロープとカラビナのみで作成。下降器は握って



引き上げシステムの構築

も離してもストップするDSD、ロープは藪の中を下降するため担いだロープバッグから繰り出しながら下降と、普段のクライミングとは勝手が違います。遭難者が発見され、救助補助として降りてきた2名の方と、レスキューハーネスを使い遭難者を担ぎ、上部へ引き上げてもらいます。引き上げシステムは4分の1システムを使用。上部に着くとその場所から遭難者を背負ったまま東屋側の下降地点までトラバース。真上からの引き上げがなくなるため足腰への負担が増え、なかなかきつい。下降地点からは遭難者をストレッチャーに乗せ、上部でビレーしてもらいながら斜面を下降しました。

次に、チロリアンブリッジを作成し吊り下げ搬送。最後に十数メートルほどの懸垂下降を行い一日目の訓練は終了となりました。二日目は、前日の基礎訓練を応用し、事故を想定した救助シミュレーションを行いました。参加者は、初日のメンバーに群馬岳連四名及び谷川岳救助隊二名を加えた計十六名。

初日と同じ登山口から入山。麻芋の滝を眺めつつ登山道を登り、岩場・鎖場とどこどころフィッ



岸壁での張り込み救助

クスを張りながら、鼻曲がりまで登りました。そこではまず、ザンゲ岩にロープで吊り下げられた遭難者の救助訓練を行いました。前日習った4分の1システムを準備しますが、場所が変わると現場の状況も変わり支点を作るのにも戸惑います。準備が完了すると救助者を遭難者のところまで降ろし、振分け救助の準備が出来たら遭難者のザイルをカットし引き上げました。

次に、前日と同じ急斜面で滑落した遭難者の検索・引き上げ訓練。私は前日行った検索役でした。前日より急な斜面で、藪も多く苦労しました。遭難者発見からは、先輩方が下降してきてスムーズな引き上げが出来ました。

続いて、救助者の下降搬送です。ストレッチャーを使用し登ってきた登山道の鎖場を搬送していきま。傾斜がきつところはロープをビレーしながらの引き下げ、切れたところではフィックスロープに掛けての搬送と状況に合わせてのいろいろな搬送法で降ろします。

橋手前の滝では、チロリアンブリッジを作り落差十数メートルの滝を、遭難者をストレッチャーごと降ろします。ロープが遭難者の体重でたわむので、ロープはなるべく遠い位置に支点を取り、ロープ下の障害物に当たらないよう指導を受けます。

麻芋の滝周辺で、隊長よりダブルプリーを使用して遭難者と介助者を一緒に降ろすチロリアンブリッジ搬送の講義を受けました。最後にその実践を登山口周辺で行い訓練は終了しました。

二日間で沢山の事を学ぶことが出来ました。救助・搬送方法は場所や状況により、いろいろな方法があることも改めて感じました。今後も訓練に参加させていただき、繰り返し実践し身につけて行きたいと思えます。ご指導いただいた皆さんに感謝いたします。

*山岳保険は必携登山装備です

消防自主訓練会 搬出訓練

遭難対策委員会 阿久津幸弘

十一月八日に古くから信仰の山として知られる足利の石尊山中で、消防の自主研究グループ信頼と絆の会の活動の一環として行われた搬出訓練に参加した。

この訓練は消防隊員が山岳事故を想定して行う自主的な訓練という事で、休日を返上し、中には勤務明けにも関わらず駆けつけて参

加する熱心さには頭が下がる思いであった。

救助訓練には持つて来いの雨模様の中、地元足利市消防を始め、前橋、藤岡、さらには千葉の松戸より総勢十八名の消防隊員が集合。遭対委員会からは町田幸男、角田守、神垣聖子、阿久津幸弘の四名。きびきびとした動きで定刻に訓練

開始。

初めに登山道途中の樹林帯斜面を利用して下降の支点工作、下降器による下降と登り返しを行う。下降は敷を想定してロープをザックで背負い繰り出しながらの下降と登り返し。消防では未だ山岳救助に使う装備が余り導入されていない様で使い方の解説も交えながらのウォーミングアップ。

続いては上部で確保しての下降と4分の1システムでの引き上げ。それぞれの動作の際には常にコールし上部、下部の意志疎通を図りながら行うのは流石訓練された隊

員たちだからこそ。引き上げシステムも手際よく構築し上部と救助が連携を取りつつ引き上げ完了。相変わらずの雨の中しばしの休息を取る。

場所を移し昼食後は20m程の岩壁を利用しての下降と遭難者の引き上げ、搬出を行う。遭難者が登山道から転落、凡その位置は分かるが上部からの視認は出来ない。との想定で訓練開始。2班に分かれて行った。

隊員一名が探索の為に下降、その間に上部では引き揚げシステムをセット、二番手、三番手の下降



めざす石尊山を背に朝の点呼



降下支点に関する講習風景



バスケットストレッチャーによる搬送

準備をしている。探索で遭難者発見、すぐさま状態を確認して上部へ伝達。後続隊員が引き上げロープを引きながら現場まで下降し遭難者と救助者を引き上げロープにセット。台図と共に引き上げ開始、後続も登り返しながらサポートを行う。想定時間内に遭難者の収容を完了。

搬送は遭難者の保温と安静をかねて銀マット、ツエルトを使い梱包。ストレッチャーに固定して引き下ろす。急な斜面では立木を利用して確保しながらの下降。遭難者の様子を窺う事も忘れずに無事車道まで搬送終了。

消防のレスキューとえば豊富な機材と人員が当たり前だが、山中という場所に限られた器材を効率よく使う、という面ではまだ改善の余地があり、登攀用器材の導入をすすめて軽量化や機能性向上も各消防本部で一考されても良いかと思う。しかし実際の良さとチームワーク（たとえ混成チームであっても）は日ごろの訓練の賜物だと感じた。プロフェッショナルの技を身近に見ることができた一日であった。

アバランチトレイニング研修会

登山指導委員会 星野俊充

開催日

二〇一六年一月一六日～一七日

場所

土合山の家周辺

主任講師

角田守 (上級山岳指導員)

講師

櫻澤斉 (上級山岳指導員)

毛呂憲治 (遭難対策委員)

神垣聖子 (遭難対策委員)

町田幸男 (上級山岳指導員)

講習内容

遭難対策委員会とのコラボ開催

一日目 (室内) 雪崩事故傾向・発生地形・不安定評価・救急

シミュレーション 梱包搬送

二日目 (室内・屋外) ビーコン、

プロローブ、スコップ

トレーニング・梱包・全体

シミュレーション

昨年度開催時の好評を受け、今年度もアバランチトレーニング研修会を開催しました。昨年の開催時に参加者より内容が一日では濃過ぎると嬉しい指摘があったこと、また日頃お世話になっている土合

山の家様に少しでも還元出来ればと言う思いから一泊二日での開催となりました。

宿泊費も含まれる事から参加費

が高くなるため参加者が集まるか

不安は有りましたが、募集早々に

申し込みがあり、最終的には中級

(宿泊) 八名、初級(一日) 十六

名の合計二十四名の参加がありました。

また、昨年以上に一般参加

者比が高く、約九〇%にあたる二

十一名となりました。更に一般参

加者の中で殆どがバックカント

リー系で、登山者は数名と言うの

が現在の冬山状況を如実に表して

いると感じられました。

今年は暖冬の影響なのか積雪が

非常に少なく、年末年始で会場確

認と打ち合わせのため二回山の家

まで出かけましたが、全く雪のな

い状況が続き大変不安ではありま

したが、何とか一〇センチ程の積

雪と講師陣の知恵を絞った進行のおかげで無事研修会を執り行うことが出来ました。

参加者からの評価も大変良いもので、当日終了後のお礼のみならず、後日メールにてお礼を頂いた参加者もありました。

地方岳連開催の研修会でこれだけの参加者が有った理由とすると、ニーズにマッチした研修内容であったこと(搜索以降の流れに重点を置いた内容)、参加費が安価であったこと、SNSを募集媒体に利用したことによる県外参加者が予想以上に有ったことが考えられます。

今回の研修会は初の宿泊開催と言うパイロット的な要素もあり、費用度外視の一面もありましたが、懇親会で参加者からの貴重な意見を聴くこともでき、大変収穫のあった事業だと感じています。初級クラスの定員到達が余りにも早く、一〇名程の申込者を受け入れる体制を組むことが出来ず断らざるを得なかったことが今回の課題として上げられます。

今後も、求められている案件の掘り起こしと、その事業化に努力したいと思っています。



遭難救助隊の 救助訓練に参加して

前橋山岳会 津久井早苗

*ふるさとの山に登ろう

三月六日(日)、今年度最終回となる遭難対策委員会の雪上救助訓練に初参加させていただきました。穏やかな天候の下、西黒尾根を少し登り鉄塔下の斜面で行いました。

これまでに、セルフレスキューの講習は受講した事はありませんが、チームレスキューは初めてでした。

訓練内容は、想定として滑落した要救助者(以下要救)を探し、

応急処置を行い登山道まで引き上げ、救助に引き渡す場所までの搬送です。

「検索」、広範囲を懸垂下降して要救を探します。

「登り返し」、見つからなければ支点まで戻ります。

「発見」

「応急処置」、今回は割愛しました。

「引き上げ」、プーリーを使い4分の1システムで要救、介護者を引き上げます。



雪面での検索を想定した降下訓練

「搬送」、ストレッチャーに要救を乗せ、雪上を滑らせたりチロリアンブリッジを作り運びます。

全てにおいて、ある程度の早さ、確実かつ安全を考慮して行動しなければなりません。各動作には登山特有のコツが必要でそれを掴む事が難しい。それには、普段から登っていないければ身に付かない事

かもしれません。ザイルワークや道具の使用方法など覚えなければならぬ事が大変多く、初参加の私は専門用語が理解出来ない為行動出来ず、他の隊員の動きを見て

いる事が多かったように思いますが、「救助」の流れは理解できましたが、それぞれの場面において自分で出来るようになる事が私の課題だと思いました。

遭難対策委員会は、消防をはじめ公共団体への技術指導も行って社会貢献活動に繋がっていることも実感します。ヘリコプターによる救助が主体になり、水上、富岡には警察の救助隊があり出動要請が出る事は少ないとは思いますが

技術の伝承という事も大切です。「山をやる」うえで自分の引き出しが増える事が何よりの収穫だと感じます。「セルフ」も自分で出来るレベルに至っていませんが、

山岳会の活動や救助隊員と切磋琢磨しレスキュー技術の復習を繰り返し行い自分で使えるものにした

と思います。

すべては、充実した楽しい「山登り」をする事に繋がっていくと、初参加ながらに思いました。



立木による引き上げ用支点の構築

岳連トピックス

「群馬県山岳団体 連絡協議会」が発足

平成二十八年四月十四日、群馬県山岳連盟、群馬県勤労者山岳連盟、日本山岳会群馬支部の三団体から構成される連絡協議会が設立総会の開催によって誕生した。

- この連絡協議会は、群馬県内の山岳において登山者が快適に登山を行うため、安全登山、遭難防止対策等の連絡調整を行い、協議し、計画的な事業を実行することを目的として掲げ、事業内容として、
- (1) 山の日事業に関する事
 - (2) 山岳関係情報の交換に関する事
 - (3) 遭難防止に関する事
 - (4) 登山ルート別難易度評価に関する事
 - (5) その他必要と思われる事業に関する事

を行うと規約に定めている。会務を総理し、本会を代表する会長には、群馬県山岳連盟会長八木原園明氏が就任した。また、副会長には、群馬県勤労者山岳連盟の清水隆次氏と日本山岳会群馬支部の田中壯信氏が、常務理事には群馬県山岳連盟理事長佐藤光由氏が就任した。

群馬山のルートグレーディング、稜線ロングトレイル、山の日制定記念行事等の事業が予定されている。

登山教室 スノーシュー講習

登山指導委員会 対比地 昇

この登山教室が行われるようになって二十年以上経ちますが、特別講習として冬に行っているこのスノーシュー講習も平成二十七年で十回目を迎えました。雪山を安全な形で楽しんでもらいたいというところで始まったのだと思いますが、日本の輪カンジキでなく、西洋のスノーシューがブームになったのもきっかけになっていると思います。今では老若男女の区別なくスノーシューで雪山を気軽に楽しむ姿をあちこちで見かけるようになりました。この講習の実施場所は近くて安全な場所ということで、主に玉原湿原、武尊牧場

年度	場所	人数
H23	湯松曾川	16
H24	玉原湿原	13
H25	武尊牧場	22
H26	玉原湿原	7
H27	玉原湿原	3



で行っています。この五年間の実施場所と参加者数は表の通りです。

雪山は童心に返って遊べるという要素があり、だれも歩いていない雪の上新しいトレースをつけながら歩いたり、真っ白な風景を楽しんだり、雪でテーブルを作って昼食を食べたりと、他の季節では味わえないことがたくさんあります。天気にも左右されますが、ここ数年は天気にも恵



まれ、この雪山での講習を楽しんでもらえたようです。

今年度のスノーシュー講習

(3/5)

午前は快晴、無風、気温も高く絶好の講習日和となりました。

コースは玉原スキー場駐車場↓センターハウス↓ブナ平↓ゲレンデ最上部↓鹿俣山山頂↓駐車場と、鹿俣山山頂まで行くことができました。参加者一人から近々上州武尊山に行くということで、ピッケルの使い方を教えてもらいたいという要望があり、基本的な使い方を講習しました。例年と比べて雪が大分少ない状況でしたが、十分に雪山を楽しむことができました。

参加者募集

平成28年度

登山教室

○目的 安全で楽しい登山のための基本的な知識と技術を習得する。

○対象 中学生以上の人で原則として全日程参加できる人。

○主催 群馬岳連指導委員会 (募集人数 先着40名)

○指導者 日本体育協会公認山岳指導員

○日程・内容 第1回(9/1(木))

19:00~21:00 群馬県生涯学習センター(以下学習センターと表記)

開講式、座学①「読図、地形図について」

第2回(9/15(木))

19:00~21:00 学習センター

座学②「読図、シルバコンパスの使い方」

第3回(9/17(土))

7:30~16:00 登山実技 榛名山

《講習内容》座学①、②の確認、歩行技術、休憩・行

動食のとり方、装備・バッグ キング等

第4回(9/22(木)) 秋分の日

7:30~16:00 登山実技 榛名山

第5回(9/29(木)) 《講習内容》第3回と同じ

19:00~21:00 学習センター

座学③「登山計画書」、座学④「登山におけるファーストエイド」、閉講式

特別講習(平成29年3/4(土))

8:00~16:00 玉原湿原 周辺

登山実技「スノーシュー講習」希望者が少ない時は中止

○参加費 五千円(全5回分、資料代・保険料を含む) 第1回の受付にて徴収(納入後の返金不可)

○申し込み方法・申し込み宛先 申し込み用紙(群馬県山岳連盟公式サイトお知らせ「H28登山教室要項」からダウンロードできます)に記入・入力して郵送(封筒)またはEメールで。

○申し込み締切日 8/12(金)

委員会紹介と就任のご挨拶

自然保護委員会委員長 三田 治宣

*8月11日は「山の日」です

今を思えば七年前、山岳会の先輩が横浜に戻るのを機に何もわからずに交代で入った自然保護委員会でした。委員会に入るまでは、一般参加者を募り自然観察会ということをしている位の情報しか持っていませんでした。しかし歴代の委員長の活動のもと、今は群馬岳連の中でも活発な委員会の一つとなっています。

自然保護委員会の委員は現在十二名になります。県内各地の山岳会から選任された委員のほか、岳連会長、副会長、会計の三役が委員として名を連ねています。その中で一番の若輩者の私が委員長となるのは誠に恐れ多いことだと思っております。

県内には様々な自然保護団体がそれぞれの特徴やテーマを持って活動していますが、当委員会も山岳団体の自然保護の部署として認知されつつあり、県内の行事に参加する機会が年毎

に増えてきています。委員会のモットーとして常に「岳人ならは」ということを念頭に山岳地域をフィールドとして活動しています。

自然保護委員会の通年行事として、○尾瀬ごみ持ち帰り運動の参加 ○谷川岳山開きの参加 ○清掃登山 ○「岳人ならではの」自然観察会の開催 ○(公社)日本山岳協会自然保護委員会の実施する



行事に参加、及びそれに準じた行事の開催。○県内各地の自然保護活動や清掃活動の参加 等があります。

日山協自然保護委員会の下、全国の山岳連盟、山岳協会の自然保護委員会があります。それらの団体との意見交換・交流はもちろんのこと、県内の各自然保護団体と連携を深めていきたいと思えます。

ちよつと動機が不純ですが、同世代の人脈作りを目的として、数年前に大規模な自然保護団体の研修を受け会員になりました。入会当初は何もわからない中、図鑑人間のような方々に交じつての参加はきつかったです。最近研修会に参加してもそれなりに楽しめるようになり、癒されている自分に気づきました。

山に登るということ、それは自然が好きということ。皆さんは既にこのことを持ち合わせています。これからも当委員会への協力をお願いいたします。さらに大勢の方に日山協の自然保護指導員になって頂けるとありがたいです。今は経歴実力も伴わず、まさに他力本願もいとこですが、皆さんには長い目で見ていただき指導ご鞭撻をお願いします。

新年度を迎えて

個人会員委員会委員長 根岸 仁



阿部利夫氏による谷川岳自然観察

個人会員委員会は、山岳会に所属していない一般登山者へ安全登山に関するサービスを提供し、登山者としての自覚を高め、安全で楽しい登山を普及することを目的として発足し、本年四月で六年を経過しました。

活動は座学勉強会と交流登山を、それぞれ月一回のペースで活動し、座学勉強会では会員の知識の向上、

技術力の向上を図り、交流登山では歩行ペースの習得、歩行技術、装備、食糧、小屋泊の生活技術など登山スキルの向上を図っています。

特に、長年継続して活動している会員は体力、技術・能力の向上がすばらしく、個人会員制度の効果が表れています。個人会員制度の一つの特徴とし



日本赤十字社講師による救急法講習



齋藤繁Dr. 及び救助隊講師によるファーストエイド講習

てスタッフが岳連内の異なる山岳会スタッフと組織内スタッフで構成されています。

このため、交流登山などでの登山技術習得は各山岳会の良いところを取り入れることができ、効果的な講習が出来ていると感じます。

本年2月に関東山岳連盟総会に出席し、個人会員制

平成27年度 山の勉強会 《活動報告》		
月	実施内容	参加者数
4月	地図読みの基礎Ⅰ 地形図を読む	43
5月	地図読みの基礎Ⅱ コンパスとGPSの使い方	38
6月	山の救急法Ⅰ 三角巾の使い方	34
7月	山の救急法Ⅱ 骨折の手当て	31
9月	自然観察のすすめ 植物の不思議	33
10月	登山計画と登山計画書の作り方	33
11月	いざという時のための山岳ファーストエイド	34
12月	山道具のメンテナンス	37
1月	山の気象 季節による山の気象の変化	32
2月	山のリスクマネジメント	24
3月	ミニ講演会	39

平成27年度 交流登山 《活動報告》		
月	実施内容	参加者数
4月	大峰山～吾妻耶山	26
5月	袈裟丸山	37
5月	水沢山 (初心者向け)	18
6月	蓼科山・北横岳	31
7月	後立山連峰 唐松岳	28
9月	谷川岳東面周辺 自然観察	16
10月	平標山・仙ノ倉山	21
11月	榛名山 ～天目山・三峰山・榛名旭岳～	12
12月	鋏柄山・大桁山	23
1月	筑波山	24
2月	日光戦場ヶ原と小田代ヶ原 スノーシュー	17
3月	北八ヶ岳 横岳、縞枯山	19

度について千葉、神奈川、埼玉、山梨と意見交換をしました。各岳連とも個人会員制度の在り方、活動方法など、多くの悩みを抱えており、活発な意見交換ができました。とりわけ群馬の活動が活発であることを各県に印象付けることが出来ました。

現在は「健康登山」、「登攀を中心とした登山」、「クライミング競

技」など個々の志向も多様化しており、個人会員制度の進め方、会員の将来的な在り方など、今後検討しなければならぬ課題もありますが、各県共通の認識として「一般登山者の安全の啓蒙活動は非常に重要であり、今後も重点的に取り組む。」という方向性は確認できました。

本年度も前年までの活動を踏襲

するとともに、新たな取り組みにもチャレンジして、安全で楽しい登山を継続していきけるよう、個人会員委員会は活動していきます。活動にあたって、各委員会、山岳会の引き続きのご指導・ご協力よろしくお願いたします。

関東 オートキャンプ場 なら 桐の木平キャンプ場 溪流サイト 団体専用あり

桐の木平キャンプ場

〒378-0102

群馬県利根郡川場村川場湯原2681

tel 0278-52-2442

電話、弱電工事

プモリ電設

〒379-2223

伊勢崎市小泉町 252

☎ 0270-62-2012



(有) 山とスキーの店 石 井

DreamBOX

伊勢崎市宮子町 3448-2

TEL 0270-21-8025 FAX 0270-21-8026